

横断的、集学的ながん治療を实践する優れた専門職を育成する  
「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」



外科学講座教授 谷 徹

# 横断的、集学的ながん治療を实践する優れた専門職を育成する 「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」

外科学講座（消化器外科）教授 谷 徹

「がんプロフェッショナル養成プラン」とは、質の高いがん専門職を養成するプログラムに対して、文部科学省が財政支援を行うものです。  
京都大学、三重大学、大阪医科大学と滋賀医科大学が共同で申請し、採択された「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」は、各大学が蓄積するがん研究の実績や特色を連携によって共有し、優れたがん専門職の育成をめざすものです。

## 4大学が連携して高度ながん教育を実施

わが国で死亡率第1位の疾患「がん」について、横断的・集学的に診療できる専門家はまた全国的に少なく、さらに高度化したがん医療を推進していくためには、がん医療を熟知した医師や看護師、薬剤師、その他の医療技術者（コメディカル）を結集したチームを機能させることが何より大切になっています。

また乳がんや前立腺がんのように、薬物療法や放射線治療が大きな役割を果たすがんが増えていることや、肺がん等の難治がんの克服が課題となり、がん患者が望む医療を地域で確実に提供できる体制づくりが望まれています。

このプログラムは、がん医療の担い手となる高度な知識と技術を持つがん専門医とコメディカルを、京都大学、三重大学、大阪医科大学、そして滋賀医科大学の4大学が連携して養成しようとするものです。

つまり、京都大学の高度で体系的ながん診療、三重大学のがん専門看護師教育、大阪医科大学の綿密な低侵襲治療を核とし

た緩和医療、そして滋賀医科大学の高度先進的治療と良質な地域連携医療という、それぞれの特色を生かしながら、職種横断的な環境の中で高度ながん教育を実施します。

連携専門医養成コースには「がん薬物療法医コース」「緩和医療医コース」「放射線治療医コース」の3コースと、「乳腺専門医コース」「婦人科腫瘍専門医コース」「腫瘍内視鏡外科医専門コース」の3つの特別コースが、またコメディカル養成コースには「がん専門薬剤師コース」「がん専門看護師コース」「がんリハビリテーションコース」「医学物理士・品質管理士コース」が開設されます。

滋賀医科大学には、「がん薬物療法医コース」「緩和医療医コース」「放射線治療医コース」と「乳腺専門医コース」が開設されました。

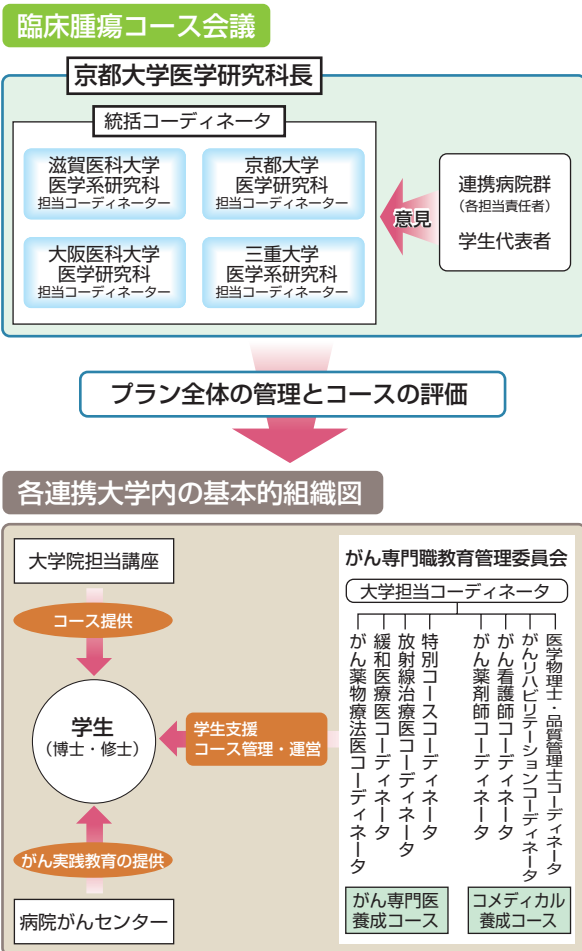
## 地域連携による総合的ながん治療体制の確立をめざす

例えば消化器がんの手術で、日本は世界最高水準のレベルを誇っているものの、薬物療法や放射線治療については立ち遅れているといわれています。また痛みのコントロールなどのいわゆる緩和医療はもちろん、がんが発症した時から患者さんの心身両面をサポートする広義の緩和医療を行える専門職の育成は進んでいると言えません。

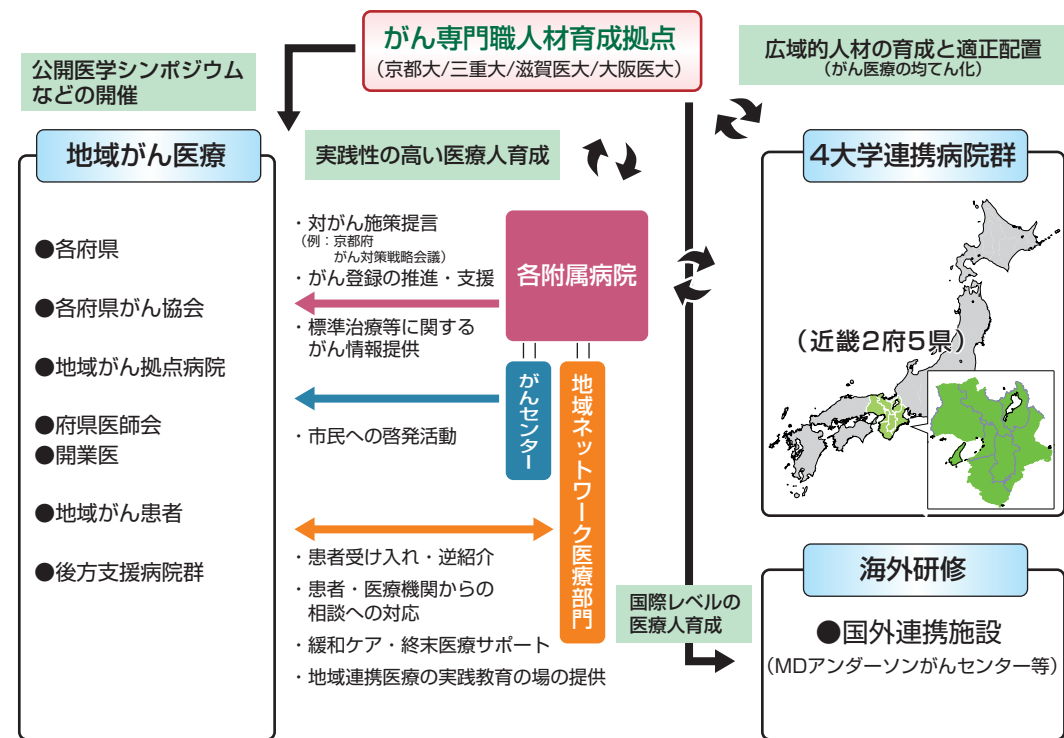
こうした遅れている分野を強化することで、より効率の高い治療を実現するだけでなく、都市部と比べると、地方では高度で十分な治療が受けられない病院間の治療における差や、入院、外来通院間での治療のギャップを含め、がん治療における（地域）格差を是正することも目的としています。

がん専門医養成プログラムでは臨床腫瘍学をコアカリキュラムとし、臓器別腫瘍カンファレンスに参加して集学的アプローチの手法を学ぶほか、地域医療への参加や、患者さんの精神的なケアについて学

## 管理体制



## 連携構想図



ぶ機会も盛り込んでいく予定です。

近年、大学院に進学する医学生が減っているという背景があります。専門臨床医をめざすコースの創設は、研究主体であった従来の大学院に新たな方向性を拓くこととなります。すでに現場で活躍している医師やコメディカルの中から、さらに高度な研究の必要性を感じ、大学院に戻ってくる人に新しい門戸を開きました。これこそ本来大学院が担っていた役割であり、大学院の復権にもつながるのではないかと期待しています。

さらにインテンシブコースは、各学会の認定医または専門医を取得した医師を対象に、夏期、冬期の集中コースや時間外コースを開設して、一定期間でがんの診断、治療、研究に必要な高度な知識と技術の修得をめざすものです。

がん治療の3本柱である手術、薬物療法、放射線治療のレベルを高めるとともに、地域の病院や医師会、自治体と協力しながら、在宅医療やホスピスなども含めた地域連携体制の確立に取り組んでいきます。同時に、がんの集学的治療、チーム医療を实践するがんセンター等の基盤組織の整備・強化をめざします。